

エコアクション21

# 環境経営レポート

対象期間: 2019年10月～2020年9月

発行日 : 2020年12月11日



黒木コンポジット株式会社



# 目次

1. 環境経営方針	P.3
2. 事業活動内容	
(1)会社概要	P.4
(2)体制図	P.5
3. 環境経営目標及び実績	
(1)中長期経営目標（中期）	P.6
(2)2019年度実績	P.7
4. 環境活動計画及び評価	
(1)環境活動計画	P.8
(2)環境活動内容と取り組みの評価	P.9～11
(3)実施状況	P.12～14
(4)次年度環境活動計画	P.15
5. 環境関連法規への違反, 訴訟等の有無	P.16
6. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.16

# 1. 環境経営方針

## 《基本理念》

黒木コンポジット株式会社は、地球環境改善を重要な課題と位置づけ、HIP処理 電子ビーム溶接 機械加工の事業活動を通じて生産における環境への配慮を行うと共に、環境経営システムを構築・運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い次世代に継承出来る環境の実現を目指します。

## 《行動指針》

環境経営システムを構築・運用し、環境関連法規等を遵守するとともに環境負荷低減に努めます。  
以下の行動指針に基づき、環境目標及び活動計画を定め、定期的な見直しを行い、継続性のある活動を展開します。

- ① 二酸化炭素の排出を削減します。  
(効率的なエネルギー使用を推進します。)
- ② 廃棄物の削減  
(分別を徹底しリサイクル率の向上に努めます。)
- ③ 水使用量の削減  
(節水に努め、水使用量を削減します。)
- ④ 使用する化学物質の削減に努めます。
- ⑤ 事業活動に関連する効率アップ及びグリーン購入を推進し環境負荷低減に努めます。
- ⑥ 関連する環境関連法規や条例等を遵守します。
- ⑦ 全従業員が改善活動の意義を理解し積極的に実践できるように方針を周知します。
- ⑧ この環境方針は広く一般に公表します。

2019年10月1日制定  
黒木コンポジット株式会社

代表取締役社長 黒木 亜矢子

## 2. 事業活動内容

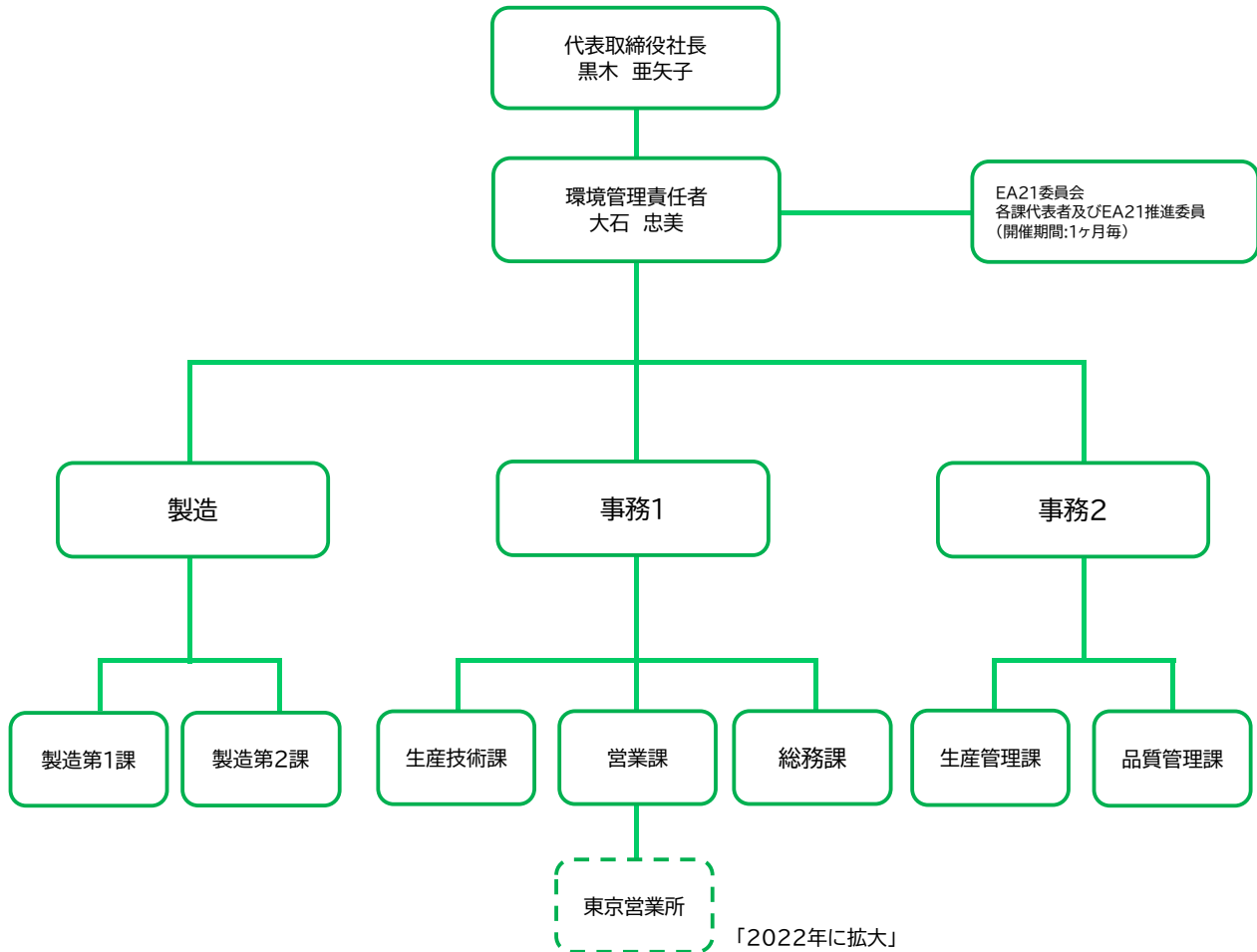
### (1) 会社概要

■ 事業所名	黒木コンポジット株式会社
■ 代表者名	黒木 亜矢子
■ 所在地（本社工場）	福岡県鞍手郡鞍手町大字古門字兵丹3109番地の9
■ 法人設立年月日	1986年10月(昭和61年)設立
■ 資本金	4,000万円(2020年9月末時点)
■ 環境管理責任者	大石 忠美
■ 連絡担当者	野村 未浦子
■ 連絡先	
○ 本社工場	TEL:0949-42-3301 FAX:0949-42-2390
○ 東京営業所	TEL:03-5713-3774 FAX:03-5713-2777
○ E-mail 本社工場	compo@kuroki.co.jp
■ 事業内容	HIP(熱間等方圧加圧) EBW(電子ビーム溶接) 及び 機械加工を使用した複合金属部品の製造
■ 当社の事業年度	10月1日～翌年9月30日
■ 事業規模	2019年度（34期実績） ・売上高 : 1513 (百万円) ・従業員数 : 69(人) ・床面積 : 6,193 (m <sup>2</sup> )
■ 認証登録範囲	『本社・工場及び全事業活動』 東京営業所は2022年に拡大する



## 2. 事業活動内容

### (2)体制図



代表者	黒木 亜矢子 (代表取締役社長)	全体の統括、環境方針の設定、環境への取組を実施する為の全体の評価と準備	
環境管理責任者	大石 忠美 (工場長)	組織全体の把握及び、環境経営システムの構築・運用。それに関する情報の社長への報告	
EA21事務局	品質管理課	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理	
推進委員	製造	窪田 裕之 (製造第1課/課長)	電力、廃棄物の排気量管理、リサイクル率管理
		熊井 孝二 (製造第2課/課長)	
	事務1	中畠 求 (生産技術課/課長)	水消費量の管理、車燃料(ガソリン、軽油)排出量管理、地域貢献
		高宮 利幸 (営業課/課長)	
		黒川 雅夫 (総務課)	
	事務2	原田 潤一 (副工場長)	薬品・環境負荷物質の管理、不適合管理
入江 誼 (品質・生産管理課/課長)			

### 3. 環境経営目標及び達成状況

#### (1) 中長期経営目標 (2020～2022年度)

目的	環境経営目標	単位	2016年度 (第31期)	2020年度 (第35期)	2021年度 (第36期)	2022年度 (第37期)
省エネルギー	二酸化炭素 排出量 <sup>※3</sup>	%	基準	7%削減 <sup>※2</sup>	8%削減 <sup>※2</sup>	9%削減 <sup>※2</sup>
		Kg-CO2	1,454,927	1,610,167	2,569,983	2,449,369
	自動車 燃費量 <sup>※4</sup>	%	2018年度基準	現状維持	現状維持	現状維持
		Km/L	13.38	13.38	13.38	13.38
資源リサイクル (廃棄物削減)	廃棄物 (一般廃棄物及び 産業廃棄物)	%	基準	7%削減	8%削減	9%削減
		Kg	25,344	28,048	44,767	42,666
	製品不良率 <sup>※5</sup>	%	基準	7%削減	8%削減	9%削減
		%	2.90	2.70	2.67	2.64
省資源の推進	水使用量	%	基準	7%削減	8%削減	9%削減
		m <sup>3</sup>	5,082	5,624	8,977	8,556
環境汚染防止	グリーン購入 の推進	品	—	45	45	45
	化学物質 使用適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
地域貢献	会社周辺 の清掃	回	—	1回/年 <sup>※6</sup>	2回/年	2回/年

※1 各年度期間と売上比率による各年度の係数

2016年度(31期):2016年10月～2017年9月末

2020年度(35期):2020年10月～2021年9月末→1.19

2021年度(36期):2021年10月～2022年9月末→1.92

2022年度(37期):2022年10月～2023年9月末→1.85

売上比率による係数:各年度の売上(予測)金額から基準年度(2016年)度の売上金額を割った値から

各項目の目標値は基準値から各係数・削減率をかけたもの

※2 各削減率は過去3年間からの実績を見直した結果を基に設定

※3 CO2の調整後排出係数 (電力:九州電力2016年度実績引用)

[電力]0.483(kg-CO2/kWh)

※4 自動車燃費量は33期(2018年度)を基準とし、算出方法の確立を実施する

※5 受注件数当たりの不適合率

※6 新型コロナウイルスが終息してから再開する

### 3. 環境経営目標及び達成状況

#### (2)2019年度実績(2019年10月～2020年9月)

目的	環境経営目標	単位	2016年度	2019年度(2019年10月～9月)		
			基準年度	目標 (3%削減)	実績	評価 <sup>※1</sup>
省エネルギー	二酸化炭素排出量 <sup>※2</sup>	Kg-CO2	1,454,908	1,947,565	1,540,437	◎
	自動車燃費量	Km/L	13.38	13.38	12.66	○
資源リサイクル (廃棄物の削減)	廃棄物排出量 (一般廃棄物及び 産業廃棄物)	Kg	25,344	33,925	23,404	◎
	製品不良率削減 <sup>※3</sup>	%	2.90	2.81	2.67	◎
省資源の推進	水使用量	m <sup>3</sup>	5,082	6,803	5,023	◎
環境汚染防止	グリーン 購入の推進	品	—	45	103	◎
	化学物質適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	◎
地域貢献	会社周辺の清掃	回/年	—	2	1	-

※1 削減目標/達成目標の達成状況により表示を変える

100%以上 ◎ 80%以上～100%未満 ○ 80%未満 ×

社内評価:80%以上を合格とする

※2 CO2の調整後排出係数はP6を参照下さい

実績は実際の数値となります

※3 受注件数当たりの不適合発生率

## 4. 環境活動計画及び評価

### (1) 2019年度環境活動計画

目的 (目標)	実施手段	責任者	スケジュール			
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
排出量 の削減 二酸化炭素	<b>■ 電気使用量削減活動</b> ・ 不要な照明の消灯 ・ エアコン温度を時季に応じて設定 ・ 不適合製品の削減 <b>■ ガソリン・軽油燃費向上</b>	製造第1課長  営業課長				
7%削減	・ タイヤ空気圧の定期点検実施					
水使用量 の削減	<b>■ 節水の励行</b>	総務課				
			7%削減			
廃棄物 の削減 排出量	<b>■ 一般/産業廃棄物の削減</b> ・ ゴミの分別の徹底 ・ 工具再利用の実施	製造第2課長				
			7%削減			
グリーン の推進 購入	<b>■ 目標品数: 45件</b> ・ 事務用品購入時にはグリーン品か 否かを確認し購入	総務課				
化学物 質管理 適正	<b>■ 管理の実施</b> ・ 配置場所の管理 ・ 使用量の管理	生産管理課長				
地域 貢献	<b>■ 会社周辺の清掃</b> ・ 地域社会の貢献として 会社周辺の清掃を行っていく	生産技術課長				



# 4. 環境活動計画及び評価

## (2)環境活動内容と取組みの評価

### 1. 二酸化炭素排出量

目標	実績値	達成率	評価
1,947,565 Kg-CO2	1,540,437 Kg-CO2	121%	<p>■ 電力使用量 工場新設に伴って、空調設備や新規設備が新規で導入された為、電力使用量は増加。但し、エアコン温度の設定等の取り組みもあり、設定した目標は達成する事が出来た。これは今迄実施してきた省エネ対策(LED化や工場外壁塗装も含めた)や各自のエコへの対策が功を奏したと考えられる。</p>
継続の可否			<p>■ ガソリン・軽油の使用量 燃費達成率:95% 合格 (80%以上合格) 第34期は各社用車毎に燃費を算出をした。その結果、車種によっては使用頻度により、燃費のバラつきがあることが判明した。 そこで来期は給油毎に燃費の算出を実施する事を検討する。ハイオク車は燃費は悪いが使用頻度は少ないため、廃棄の検討は見送ることとし、当面は使用を続ける予定。</p> <p>■ 不適合 第34期は受注件数に対する不適合発生率(2.67%)と目標(2.81%以下)に抑える事が出来た。来期も目標が達成出来る様に更に監視・対策を講じて行きたい。</p>
<p>■ 電力関係 :継続</p> <p>■ 燃費関係(ガソリン/軽油):継続</p> <p>■ 不適合製品発生率削減 :継続</p>			
取組み内容			
<p>■ 電力使用量削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン温度を時期に合わせて設定</li> <li>・不要な照明の消灯 (昼休み・夜勤・残業時)</li> </ul> <p>■ 不適合製品発生率の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不良発生状況の把握/改善会議の開催</li> <li>・不良件数の削減</li> </ul> <p>■ 社用車の燃費向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイヤの定期点検</li> </ul>			

### 2. 水使用量

目標	実績値	達成率	評価
6,803 m <sup>3</sup>	5,023 m <sup>3</sup>	126%	<p>年間を通じて目標を十分に達成。今後も無駄がないようにこの状態を維持することとしたい。</p>
継続の可否			
継続			
取組み内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水の励行</li> </ul>			

### 3. 廃棄物総排出量

目標	実績値	達成率	評価
33,925 Kg	23,404 Kg	131%	<p>■ 一般廃棄物 工場内に分別用ゴミ箱を配置した事により、分別の徹底を実施。基準年度(16年度)と比較すると、生産量増加に関わらず34期(19年度)は一般廃棄物排出量が統計開始から最小となっている。</p> <p>■ 産業廃棄物 工場新設による装置移動に伴い、切削油・潤滑油の総入替を実施した為、廃油の排出量が一時的に増えた為、全体の排出量増加に繋がった。一方、オイルスキマーの導入や洗浄性の高い切削液への切替の効果が出ている為、来年度以降の計画の見直しを実施した。</p> <p>■ キリコ(ドライ粉) 鉄・アルミニウムの分別実施により、引取価格の向上に寄与した。</p>
継続の可否			
継続			
取組み内容			
・工具再利用の推進		・分別の実施	

### 4. 化学物質適正使用

目標	実績値	達成率	評価
適正管理	適正管理	-	第34期はNaOH(水酸化ナトリウム)とHNO <sub>3</sub> (硝酸)の使用頻度が増えている。酸による腐食頻度が多い為、中和用途としての強塩基剤(NaOH)の購入量が増えたと推測される。
継続の可否			
継続			
取組み内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置場所の管理</li> <li>・使用量の管理</li> </ul>			

### 5. グリーン品購入

目標	実績値	達成率	評価
45 件	103 件	229%	購入する際にはグリーン購入法を意識するとともに、ファイルなどは再利用できるものは再利用する。ペンなどはできるだけ替え芯などで対応するなどを実行することとしたい。
継続の可否			
継続			
取組み内容			
・グリーン購入法特定調達品の購入			

## 6. ボランティア活動

目標	実績値	達成率	評価
2 回/年	1 回/年	50%	2019.11.27 実施済 2020 春 新型コロナウイルス感染対策が難しい為、実施出来ず 各職場から数名参加してもらい(≒15~20名程度) 多量のゴミを収集出来、地域貢献出来た
継続の可否			
継続			
取組み内容			
<p>・会社周辺道路の清掃を3班に分け、春・秋の2回実施の予定だったが、 新型コロナウイルス感染予防の一環として、2020年春に予定していた一斉清掃活動は中止した</p>			

## 4. 環境活動計画及び評価

### (3)実施状況

#### ■ エコアクション委員会の実施

毎月、各部署より選出されたエコアクション委員を招集し、

「エコアクション委員会」を実施。

電力使用量、ガソリン使用量などの各データをもとに、

活動の振り返りと今後の活動について、エコアクション委員を中心に協議を実施。

《エコアクション委員会 会議風景》



#### ■ 環境掲示板の設置

活動内容及びエコアクション委員会での会議内容を掲示。

社員全員の目に届く場所に掲示することで、周知徹底を図っています。

《環境掲示板》



## ■ エアコンの定期清掃及び設定温度の指示

環境に配慮したエアコンの使用を実施。

各エアコンに夏季・冬季での使用時の設定温度を表示。

設定温度を、夏季は26℃、冬季は22℃に設定して使用しています。

毎月エアコンフィルターを清掃することで効率的な冷暖房の使用を心掛けています。

### 《各エアコンの設置状況》



## ■ 節電の呼びかけの実施

電力使用量削減を目的として、各署の照明スイッチ付近に節電の呼びかけを掲示。

「身近なところから始めれる」節電活動の啓蒙を図っています。

### 《節電呼びかけポスターの使用例》



## ■ ボランティア活動の実施

弊社では、本社工場周辺の地域清掃活動を定期的に行っております。

### 《地域清掃活動時の風景》





## 4. 環境活動計画及び評価

### (4)2020年度(35期) 環境活動計画

目的 (目標)	実施手段	責任者	スケジュール			
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
排出量の削減 二酸化炭素	<b>■ 電気使用量削減活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>不要な照明の消灯</li> <li>エアコン温度を時季に応じて設定</li> <li>不適合製品の削減</li> </ul> <b>■ ガソリン・軽油燃費向上</b>	製造第1課長				
7%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイヤ空気圧の定期点検実施</li> </ul>	営業課長				
水使用量の削減	<b>■ 節水の励行</b>	総務課				
7%削減						
廃棄物の削減	<b>■ 一般/産業廃棄物の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミの分別の徹底</li> <li>工具再利用の推進</li> </ul>	製造第2課長				
7%削減						
グリーン購入の推進	<b>■ 目標品数:45件</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務用品購入時にはグリーン品か否かを確認し購入</li> </ul>	総務課				
化学物質管理適正	<b>■ 管理の実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>配置場所の管理</li> <li>使用量の管理</li> </ul>	生産管理課長				
地域貢献	<b>■ 会社周辺の清掃</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の貢献として会社周辺の清掃を行っていく ※但し、コロナウィルスが落ち着き次第、再開する</li> </ul>	生産技術課長	→		→	

## 5. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### (1)適用となる主な環境関連法規

エコアクション21で対象となる環境関連法案は違反はありません。

### (2)訴訟等

- ・関連機関等からの指摘等⇒無
- ・訴訟⇒無

## 6. 代表者による全体評価と見直しの結果

本年度も、全項目に具体的な対策実施、且つ目標を達成していますので、しっかりと環境負荷低減を意識した生産活動であったと思います。

新型コロナウイルス流行後、大人数での教育や清掃が難しい中、個別教育等の可能な活動を実施する等、工夫も感じられました。

中長期的には従来より高い削減目標を掲げていくことになっており、一層活発な活動を期待しています。

具体的取り組みとしては、廃棄物関係のさらなる分別徹底に挑戦し、排出低減に貢献できるようがんばりましょう。